

ほけんだより

令和7年度 12月号

早いもので、今年も残り1ヶ月もありません。寒さも一段と厳しくなり、咳や鼻水などの風邪症状の園児もいます。これから年末にかけてイベントが盛りだくさんです。引き続き体調管理には十分気を付けていきましょう。

~~~10・11月の感染症情報~~~

10月 :	溶連菌感染症	1名	(くじら組)
	水痘（水ぼうそう）	1名	(いるか組)
	新型コロナウイルス	1名	(ぺんぎん組)
	インフルエンザ（A・B）	2名	(あかちゃん組 いるか組)
	ヘルパンギーナ	3名	(あかちゃん組)
	突発性発疹	1名	(あかちゃん組)
	手足口病	1名	(ぺんぎん組)
11月 :	溶連菌感染症	3名	(ぺんぎん組 らっこ組 いるか組 各1名ずつ)
	新型コロナウイルス	1名	(いるか組)
	インフルエンザ（A型）	63名	(あかちゃん組 1名 ぺんぎん組 25名 らっこ組 16名 いるか組 11名 くじら組 10名)

インフルエンザが流行しています。1シーズンに2度感染したり、型の違うものに感染したりもします。園でも感染対策は継続して行なっていますが手洗いと換気、十分な睡眠と食事など引き続き家庭でも感染対策をお願いします。

・・・・・薬の約束・・・・・

入園時にもお知らせしましたが園での『薬の約束』を改めて

- ・点眼薬、点鼻薬、軟膏は毎日持ち帰りです。与薬後は事務所の「持ち帰り薬入れ」に保管しています。帰りに忘れずに（保護者が）取りに来てください。
- ・市販薬、坐薬、吸入器はお預かり出来ません。
- ・「咳が出たら…」「歯が痛くなったら…」など、症状が出てから飲ませる頓服薬は与薬の要否の判断が難しい為、頓服薬はお預かり出来ません。
- ・昼帰りや園外保育の時は安全を考慮して薬は預りません。家庭で調整して下さい。

受診の際は朝・晩2回で済む処方を依頼して、園で服薬

しなくて大丈夫になるよう、ご協力を願います



動きやすい服装で登園しましょう

最近の子ども達はとってもおしゃれです。ただ、園での服装は「活発に遊べるもの」を考慮して選んで頂きたいと思います。

【下着を着る】

保湿性・吸湿性を考えると綿100%で半袖のものが望ましいです。キルティングの長袖シャツは動きにくく、暑すぎます。

【安全なものを着る】

フードや紐はどこかに引っかかる恐れがあるので危険です。チャックやボタンは子どもが一人で着脱し易いか、安全かどうか家庭で確認してみましょう。

【うす着でも平気】

園では暖房がほぼ1日中使用されているので、裏起毛の衣類やヒートテックは（日中）暑すぎます。 着せ過ぎは汗をかいて逆に冷えてしまいます。外に出る時はしっかりした上着（防寒衣）を着て、中は着脱し易い薄手の服装で登園するのが望ましいです。全ての衣類に（ジャンパー・帽子含め）記名してください。

子どもの発熱と受診のタイミング

私たちがよく聞かれる質問の1つです。「熱が出たから、すぐに受診した方が良いですか?」「もっと早く受診したらこじれないですみましたか?」・・・病院の受付時間などの問題もあるので『大正解』は無いですが、①子どもの元気具合②ウイルス検査を希望するかどうかの2点が受診のポイントなるかと思います。

① 子どもの元気具合

熱の高さよりも、相手をすると少し遊ぶことができ、すすめると水分を摂れて尿量がいつもの8割は出ているなら少し様子を見ても大丈夫。 热はそれほど高くなくても、ぐったりして反応が乏しく、尿量がいつもの半分以下なら急いで受診して下さい。

② ウィルス検査を希望する

インフルやコロナは発熱してから24時間後くらいが検査を受けるのに良いと言われています。発熱直後は検査の信頼性が低く、発熱後12時間未満だと、それより早いと偽陰性の判定がつき「明日また検査受けてね」とすすめられる事もあります。

色々な条件がありタイミングを決めるのは難しいのですが、保護者の方が迷う時はまず受診して相談することをおすすめします。また、受診をして薬を服用しているのにいつもよりも元気がない、鼻水や咳が出る等の場合は家庭でゆっくり身体を休めることが大切です。